

<第3編 風水害編>

(資料編Ⅲ-1-1-1) 県下に被害を及ぼした台風

1 カスリーン台風による水害

昭和 22 年 9 月 15 日関東地方を襲ったカスリーン台風と前線の影響により、14 日と 15 日の 2 日間で秩父に 611 ミリの大雨を降らせたため、河川は増水し、利根川が北埼玉郡東村（現加須市）地内で 400 メートルにわたって破堤したのをはじめ、荒川が熊谷市久下地内で 100 メートル破堤するなど、県内の 124 か所で堤防が決壊した。

このため県内のいたるところが大洪水となったが、ことに利根川堤防の決壊によって県の東部は濁流と化し、あたかも利根川本流の様相を呈したため、40 万人のり災者と約 1,400 人の死傷者を出す大災害となった。

被害状況

死者	86 人	行方不明	10 人
負傷者	1,394 人		
流失家屋	392 戸		
全壊	726 戸	半壊	2,116 戸
床上浸水	44,610 戸	床下浸水	34,334 戸
計	82,178 戸		
被害人員	421,667 人		
被害総額	88 億 5,900 万円（発生当時の見積額）		

2 台風第 22 号による水害（狩野川台風）

昭和 33 年 9 月 21 日グアム島付近に発生した台風第 22 号は、26 日に至って本土に上陸した。このため、本県では山岳部で約 300 ミリ、平野部で約 400 ミリの大雨となり、秩父方面でがけ崩れ、道路、橋りょうの決壊により交通が途絶したほか、県内各地で河川が氾濫し、鉄線籠、石張施設などが漏水して 24 か所の堤防に決壊、亀裂が生じ、さらに危険箇所は数箇所に及んだ。

ことに川口市においては、この台風の影響で荒川の水位が市内を流れる芝川より高くなり逆流を始めたので、これを防ぐために排水口を閉じたほか、浦和方面に降った約 400 ミリの大雨が、芝川を通じて川口市内へ流れこんだため、27 日午前 9 時には市街地の大部分が屋根まで水びたしとなった。

さらに戸田町においても、中央排水路の荒川への排水口を閉じたため、たん水状態となった。

このため川口市及び戸田町にそれぞれ災害救助法が適用された。

被害状況

死傷者	5 人		
床上浸水	11,563 戸	床下浸水	29,980 戸
計	41,543 戸		
被害	46,821 人		
被害総額	5 億 9,885 万円（発生当時の見積額）		

3 台風第 4 号における水害

昭和 41 年 6 月 28 日襲来した台風第 4 号は、その経路は秋型コースにより房総沖を通過し、梅雨前線を刺激して雨台風となったため、6 月としては異常な豪雨となり県下全域に浸水家屋、土砂くずれなどの大きな被害をもたらした。

降雨量は、秩父 244 ミリ、川越 331 ミリ、浦和 267 ミリを記録し、広域にわたって浸水又は冠水して、被害は昭和 33 年 9 月 26 日の狩野川台風以来のものとなった。

なお、台風 4 号は、県南の市街地及びその周辺の住宅地や比較的市街経験の少ない県北地方に大水害をもたらしたが、特に荒川、利根川等の直接被害より中小河川の氾濫による被害がもっともひどかったことがあげられ、この災害で県及び市町村は災害対策本部を設置し、富士見市、足立町、川口市、浦和市、蕨市、行田市、戸田町に災害救助法を適用し、被害者の救助にあたった。

被害状況

死者	6人	行方不明	2人
負傷者	7人		
全壊家屋	10戸	流失家屋	2戸
半壊家屋	6戸	一部破損	165戸
床上浸水	17,500戸	床下浸水	57,825戸
被害戸数	75,508戸		
被害人員	315,447人		
公共土木	1,843箇所		
被害総額	24億1,039万円（発生当時の見積額ただし耕作地の被害）		

4 台風第26号による風水害

昭和41年9月25日襲来した台風第26号は、25日0時すぎ静岡県御前崎に上陸後、県北西部に北上したため強風と大雨を伴い、県下全域に家屋倒壊、浸水地域、また、土砂くずれなど人的、物的に大きな被害をもたらした。

県下の被害状況は、県北部の大里、児玉地区、県西部の入間、比企地区が風によるものであり、県南部北足立地区は豪雨による浸水地域となっている。なかでも県北部大里地区の寄居町と深谷市を結ぶ線上から群馬県よりの本庄市児玉地方一帯が特に激しい暴風となり県下最大の被害を受けた。

なお、被害は記録的な暴風による家屋倒壊が大きかったが、原因は最大瞬間風速40m/s前後の暴風が県北西部を通りぬけたことにあるがそのほかに

- (1) 農村の家屋が、上部が重いワラやカワラぶきでしかも老朽家屋が多かったこと。
- (2) 災害はあまり受けた経験がない県民としては、まさかという油断で、家屋の補強をする人が少なかったこと等である。

この災害で県及び市町村は災害対策本部を設置し、熊谷市、行田市、妻沼町、岡部村、深谷市、川本町、花園村、寄居町、本庄市、美里村、児玉町、神川村、上里村、飯能市、坂戸町、日高町、川越市、狭山市、吉見村、秩父市、羽生市、東松山市、小川町、吹上町、加須市、毛呂山町、滑川村、鳩山村、所沢市、与野市、戸田町、足立町、富士見町、武蔵町、越生町、川島村、横瀬村、野上町、東秩父村、大里村、江南村、豊里村、騎西町、川里村、鶴ヶ島町、菅谷村、南河原村、皆野町、西部町、小鹿野町、玉川村、都幾川村の52市町村に災害救助法を適用し救助にあたりとともに、

住宅の復興等全般にわたって復旧要綱を決定し、県政史上いまだかつてない大規模な救助活動を実施した。

被害状況

死者	28人	負傷者	727人
全壊家屋	1,242戸	流失家屋	1戸
半壊家屋	6,699戸	一部破損	80,262戸
床上浸水	740戸	床下浸水	10,548戸
被害戸数	99,492戸		
被害人員	442,358人		
公共土木	2,974箇所		

5 台風第20号による風水害

昭和54年10月17日の22時頃から、県下に台風第20号の影響による雨が降りはじめ、18日16時50分に大雨洪水注意報、19日7時20分に風雨洪水注意報が熊谷地方气象台から発表され県内全域にわたり風と雨による被害が続出しはじめ、15市10町5村で災害対策本部を設置し、県では警戒体制第2配備を施行し災害状況の調査にあたった。

被害状況

死者	2人	負傷者	55人
全壊家屋	7戸	半壊家屋	103戸

一部破損	1,715 戸		
床上浸水	879 戸	床下浸水	9,086 戸
被害戸数	11,790 戸		
被害人員	36,013 人		
被害総額	76 億 2,226 万円		

6 台風第 24 号による風水害

昭和 56 年 10 月 22 日朝から、県下に台風第 24 号の影響による雨が降りはじめ、22 日 13 時 50 分に大雨・洪水・強風注意報、同 18 時 00 分に暴風雨・洪水警報が発表され、県内全域にわたり風と雨による被害が続出しはじめ、36 市町村で災害対策本部もしくはそれに準じる体制をしいた。

県では警戒体制第 1 配備を施行し災害状況の調査にあたった。

被害状況

一部破損家屋	7 戸		
床上浸水	2,119 戸	床下浸水	20,227 戸
被害戸数	22,353 戸		
被害総額	1 億 6,964 万円		

7 台風第 10 号による風水害

昭和 57 年 8 月 1 日朝から、県下に台風第 10 号による大雨が降り、1 日 9 時 20 分に大雨洪水注意報、同 13 時 10 分に大雨洪水警報、2 日 0 時 10 分に暴風雨洪水警報が発令され、県内全域にわたり風と雨による被害が続出しはじめ、19 市町村で災害対策本部を設置し、県では警戒体制第 1 配備を施行し災害状況の調査にあたった。

被害状況

死者	4 人	負傷者	6 人
全壊家屋	5 戸	半壊家屋	25 戸
一部破損	671 戸		
床上浸水	151 戸	床下浸水	3,692 戸
被害戸数	4,454 戸		
被害人員	18,217 人		
被害総額	181 億 8,022 万円		

8 台風第 18 号による風水害

昭和 57 年 9 月 12 日 18 時 頃静岡県御前崎付近に上陸した台風第 18 号による影響により平野部を中心に大雨が降り県内全域にわたって大きな被害をもたらした。

この災害で、浦和市ほか 52 市町村で災害対策本部を設置し、昭和 41 年以来の災害救助法を志木市、富士見市、朝霞市、草加市、越谷市、大宮市、浦和市、与野市及び鳩ヶ谷市の 9 市に適用し救助活動を実施した。

被害状況

死者	1 人	負傷者	4 人
全壊家屋	1 戸	半壊家屋	13 戸
一部破損	28 戸		
床上浸水	13,760 戸	床下浸水	50,075 戸
被害戸数	63,877 戸		
被害人員	223,606 人		
被害総額	127 億 9,267 万円		

9 台風第 5 号・第 6 号による風水害

昭和 58 年 8 月 14 日から県下に台風第 6 号の影響による雨が降りはじめ、さらに本土への接近が

遅れた台風第5号が台風第6号を吸収し、17日夜半ごろ本県を通過した。

この間、15日2時00分に大雨強風洪水注意報、同15時40分に大雨洪水注意報、同21時55分に大雨洪水警報雷雨注意報が発表され、県内全域にわたり風と雨による被害が発生した。

このため、11市町村で災害対策本部を設置し、県では警戒体制第2配備を施行し災害状況の調査にあたった。

被害状況

死者	1人		
半壊家屋	1戸	一部破損	3戸
床上浸水	4戸	床下浸水	147戸
被害戸数	155戸		
被害人員	546人		
被害総額	24億1,677万円		

10 台風第6号による風水害

昭和60年7月1日2時すぎに御前崎付近に上陸した台風が、中心気圧970mbと大型で並の勢力を保ちながら、県南部を通り7時すぎ三陸沖に抜けた。

この間6月30日10時50分に大雨洪水注意報、同17時30分に大雨洪水警報、同23時50分に大雨洪水警報強風注意報が発表され、県内全域にわたり大きな被害が発生した。

このため、13市町村で災害対策本部を設置し、県では警戒体制第1配備を施行し、災害状況の調査にあたった。

被害状況

床上浸水	704戸	床下浸水	3,069戸
被害戸数	3,773戸		
被害人員	13,376人		
被害総額	32億3,617万円		

11 台風第10号による風水害

昭和61年7月29日フィリピン東方海上に発生した弱い熱帯性低気圧が8月1日ルソン島の東で台風第10号となった。その後台風が北東進し、4日には石廊崎の南約120kmの海上で温帯性低気圧に変わった。台風がもたらした高温多湿な気流と前面にあった低気圧に伴う前線が活発化したため、広い範囲で多量の雨が降り、埼玉県内において200mmを超える大雨となった。このため県南部を中心に浸水の被害が発生し、また、県内のところどころで田畑の冠水、道路被害が発生した。埼玉県は、5日午後10時30分草加市に災害救助法を適用した。

被害状況

負傷者	1人		
半壊家屋	2戸	一部破損	1戸
床上浸水	6,060戸	床下浸水	20,275戸
被害戸数	26,338戸		
被害人員	105,027人		
被害総額	35億9,924万円		

12 台風第18号による水害

平成3年9月15日に沖の鳥島の南東海上で発生した台風第18号は、沖縄南方海上を経て日本の南海上を北東進し、19日20頃には千葉県銚子市の南東約50kmまで接近した。その後三陸沖に進み20日9時には温帯低気圧に変わった。

台風は大型で広範囲に雨雲を伴い、また北上するに従い日本の南海上の前線が活発化したため、埼玉県内でも所により200mmを超える大雨となった。

このため県南部及び東部を中心に大きな被害が発生し、21市6町で災害対策本部が設置され、県でも警戒体制第1配備を施行し災害情報の収集にあたった。また、与野市、草加市、志木市、朝

霞市及び富士見市の5市に災害救助法を適用した。

被害状況

全壊家屋	1棟		
床上浸水	6,382棟	床下浸水	22,059棟
被害棟数	28,442棟		
被害人員	99,907人		
被害総額	32億7,304万円		

13 台風第11号による風水害

平成5年8月27日に、台風第11号が千葉県銚子市付近を通過し、本州の東海上を北上したため、関東甲信地方から東北地方南部にかけて大雨となった。

県内では、26日16時00分に全域で大雨・洪水・強風・雷注意報、翌27日5時35分に大雨・洪水警報が発表され、大きな被害が発生した。秩父地方をはじめとする県内各地は、降水量が200mmを超える大雨であった。

このため、19市町で災害対策本部が設置された。

被害状況

負傷者	2名		
全壊家屋	1棟	一部破損	2棟
床上浸水	2,060棟	床下浸水	15,787棟
被害棟数	17,850棟		
被害人員	54,984人		
被害総額	17億3,771万円		

14 台風第17号による風水害

平成8年9月13日にフィリピンの東海上で発生した台風第17号は、発達しながら北西のちに北東に進み、22日午前強い勢力で八丈島の西の海上を通り、午後には房総半島の東海上を北北東に進んだ。台風の中心が近くを通った房総半島など関東地方南部等で暴風雨となった。

県内では、21日18時20分に全域で大雨・洪水・強風注意報、翌22日11時10分に大雨・洪水・暴風警報が発表され、風と雨による被害が発生した。

このため、12市町で災害対策本部を設置し、県でも警戒体制第1配備を施行して災害情報の収集にあたった。また、与野市に災害救助法を適用した。

被害状況

負傷者	4名		
半壊家屋	1棟	一部破損	26棟
床上浸水	761棟	床下浸水	4,329棟
被害棟数	5,117棟		
被害人員	14,426人		
被害総額	1億6,668万円		

15 台風第4号による風水害

平成10年8月26日から31日にかけて、前線が本州付近に停滞した。一方、台風第4号は、日本の南海上をゆっくり北上した。この間、日本の東の高気圧と台風の影響で、前線に向かって暖湿気流が流入したため、北日本から東日本にかけて断続的に大雨が降った。

県内では、27日20時30分に全域で大雨・洪水・雷注意報、翌28日1時35分に大雨・洪水警報が発表され、大きな被害が発生した。

このため、8市で災害対策本部を設置し、県でも警戒体制第1、2配備を施行して災害情報の収集にあたった。また、川越市に災害救助法を適用した。

被害状況

床上浸水	814棟	床下浸水	1,881棟
------	------	------	--------

被害棟数 2,695 棟
 被害人員 8,016 人
 被害総額 22 億 9,725 万円

16 台風第 5 号による風水害

平成 10 年 9 月 14 日に父島の南海上で発生した台風第 5 号は、発達しながら北上して 16 日 4 時半頃静岡県御前崎付近に上陸し、その後、関東地方から東北地方を縦断した。

県内では、15 日 17 時 20 分に全域で大雨・洪水・暴風警報、雷注意報が発表され、大きな被害が発生した。秩父地方では、降水量が 250 mm を超える大雨であった。

このため、5 市で災害対策本部を設置し、県でも警戒体制第 1 配備を施行して災害情報の収集にあたった。また、与野市に災害救助法を適用した。

被害状況

負傷者	2 名		
一部破損	15 棟		
床上浸水	585 棟	床下浸水	1,651 棟
被害棟数	2,251 棟		
被害人員	6,465 人		
被害総額	21 億 1,140 万円		

17 台風第 3 号による風水害

平成 12 年 7 月 3 日にフィリピンの東海上で発生した台風第 3 号は、発達しながら北北東に進み、8 日早朝八丈島と三宅島の間を通過して、さらに房総半島の東海上を北上した。この台風により、7 日から 8 日を中心に関東から東北地方の太平洋側を中心に大雨となった。

県内では、7 日 16 時 50 分に全域で大雨・洪水・強風注意報、22 時 20 分に大雨・洪水・暴風警報が発表され、大きな被害が発生した。

このため、6 市町で災害対策本部を設置し、県でも警戒体制第 1 配備を施行して災害情報の収集にあたった。また、与野市に災害救助法を適用した。

被害状況

負傷者	1 名		
床上浸水	599 棟	床下浸水	1,834 棟
被害棟数	2,433 棟		
被害人員	6,767 人		
被害総額	7 億 7516 万円		

18 台風第 22 号による風水害

平成 16 年 10 月 4 日 15 時にフィリピンの東海上で発生した台風第 22 号は、発達しながら日本の南海上を北上した。台風は、9 日 16 時頃、伊豆半島に強い勢力で上陸し、関東地方を通過して、夜には鹿島灘へ進み、10 日 9 時に日本の東海上で温帯低気圧となった。

県内では、8 日 15 時 50 分に全域で大雨・洪水注意報、翌 16 日 1 時 53 分に大雨・洪水・暴風警報、雷注意報が発表され、大きな被害が発生した。降水量が県内各地で約 200 mm を超える大雨であった。

このため、7 市町で災害対策本部を設置し、県でも警戒体制第 2 配備を施行して災害情報の収集にあたった。

被害状況

負傷者	1 名		
床上浸水	159 棟	床下浸水	1,403 棟
被害棟数	1,562 棟		
被害人員	1,996 人		
被害総額	10 億 8,453 万円		

19 台風第 18 号による風水害

平成 25 年 9 月 13 日 3 時に小笠原諸島近海で発生した台風第 18 号は、発達しながら日本の南海上を北上し、16 日 8 時前に暴風域を伴って愛知県豊橋市付近に上陸した。その後、台風は関東地方から東北地方を通過し、16 日 21 時に北海道の東で温帯低気圧となった。

県内では、15 日 4 時 01 分に大雨・洪水・雷注意報、7 時 19 分に大雨・洪水警報が発表され、大きな被害が発生した。熊谷市、行田市及び滑川町では竜巻による被害があった。

このため、熊谷市及び行田市で災害対策本部を設置し、県でも情報収集体制を施行して災害情報の収集にあたった。また、熊谷市に災害救助法を適用した。

被害状況

負傷者	1 名				
家屋全壊	10 棟	半壊	23 棟	一部損壊	939 棟
床上浸水	27 棟	床下浸水	174 棟		
被害棟数	1,173 棟				
被害人員	79 人				
被害総額	1,136 万円				

20 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨

平成 27 年 9 月 7 日 3 時に発生した台風第 18 号は、日本の南海上を北上し、9 月 9 日 10 時過ぎに愛知県知多半島に上陸した後、日本海に進み、同日 21 時に温帯低気圧に変わった。台風第 18 号及び台風から変わった低気圧に向かって南から湿った空気が流れ込んだ影響で、西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となり、特に関東地方と東北地方では記録的な大雨となった。

県内では、8 日 17 時 22 分に大雨・洪水・雷注意報、9 日 1 時 53 分に大雨・洪水警報が発表され、大きな被害が発生した。

このため、草加市、越谷市、八潮市、幸手市、吉川市、越生町、ときがわ町で災害対策本部を設置し、県でも情報収集体制を施行して災害情報の収集にあたった。

被害状況

負傷者	3 名				
家屋一部損壊	6 棟				
床上浸水	880 棟	床下浸水	3,992 棟		
被害棟数	4,878 棟				
被害人員	1,056 人				
被害総額	9,033 万円				

21 台風第 9 号による被害

平成 28 年 8 月 19 日 15 時にマリアナ諸島で発生した台風第 9 号は、発達しながら北上し、勢力を保ったまま、22 日 12 時半頃、千葉県館山市付近に上陸した。その後、23 日 09 時には北海道北見市付近を北北東に進み、23 日 12 時にはオホーツク海で温帯低気圧に変わった。

県内では、台風の接近に伴い、21 日から雨が降り出し、22 日 20 時までの総雨量は、秩父市浦山で 225.5 ミリ、飯能市飯能で 218.5 ミリ、秩父市秩父で 215.0 ミリを観測した。特に、南から湿った空気が流れ込んで雨雲が発達した県南西部、南中部では、22 日昼前から昼過ぎにかけて 1 時間に約 100 ミリを超える猛烈な雨が降ったところがあった。

このため、県内 12 市町村で災害対策本部を設置し、県でも情報収集体制を施行して災害情報の収集にあたった。

被害状況

負傷者	13 名				
家屋全壊	2 棟	半壊	3 棟	一部損壊	17 棟
床上浸水	398 棟	床下浸水	1,715 棟		

被害棟数	2,135 棟
被害人員	902 人
被害総額	8,050 万円

22 台風第 21 号による被害

平成 29 年 10 月 16 日 03 時にカロリン諸島で発生した台風第 21 号は、発達しながら北上し、22 日にかけて非常に強い勢力を保ったまま、次第に速度を上げて日本の南を北上した。台風は、23 日 03 時頃に超大型の強い勢力で静岡県御前崎市付近に上陸した。その後、暴風域を伴ったまま東海地方及び関東地方を北東に進み、23 日 09 時には福島県沖に抜け、23 日 15 時に北海道の東で温帯低気圧に変わった。

この台風の接近・通過により、県内では 22 日から 23 日にかけて大雨となった。10 月 20 日 12 時から 23 日 18 時までの総降水量は、所沢で 291.5 ミリ、熊谷で 289.0 ミリ、ときがわで 283.5 ミリ、飯能で 276.5 ミリなど越谷を除くアメダス地点で 200 ミリを超える大雨となった。最大 1 時間降水量は、熊谷で 46.0 ミリ（23 日 01 時 36 分まで）、鴻巣で 41.5 ミリ（23 日 01 時 57 分まで）のほか、県内各地で激しい雨を観測した。

このため、県内 16 市町村で災害対策本部を設置し、県でも情報収集体制を施行して災害情報の収集にあたった。

被害状況

負傷者	11 名		
家屋半壊	45 棟	一部損壊	10 棟
床上浸水	458 棟	床下浸水	556 棟
被害棟数	1,069 棟		
被害人員	1,160 人		
被害総額	102,420 万円		

23 令和元年東日本台風による被害

10 月 6 日に南鳥島近海で発生した令和元年東日本台風は、マリアナ諸島を西に進み、一時、大型で猛烈な台風に発達した後、次第に進路を北に変え、日本の南を北上し、12 日 19 時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した。その後、関東地方を通過し、13 日 12 時に日本の東で温帯低気圧に変わった。

この台風の本県通過に伴い、県内では 11 日から 13 日にかけて大雨となった。10 月 11 日 12 時から 13 日 1 時までの総降水量は、浦山で 680 ミリ、ときがわで 603 ミリ、三峰で 590 ミリ、少ない所でも鴻巣で 195 ミリと県内各地で大雨となった。

このため、本県では初となる大雨特別警報が 40 市町村に発表された。県では災害対策本部を設置し災害対応に当たり、県内 48 市町村に災害救助法を適用した。

被害状況

死者	4 人	負傷者	33 人
家屋全壊	107 棟	半壊	570 棟
一部破損	1,021 棟	床上浸水	2,088 棟
床下浸水	3,371 棟		
被害棟数	7,157 棟		
被害人員	13,072 人		
被害総額	741,390 万円		

(文中に使用される単位等については当時の基準に従って記載されています。現在では異なる単位や区分で使用されているものがあります。)